スマートフォンの利用について

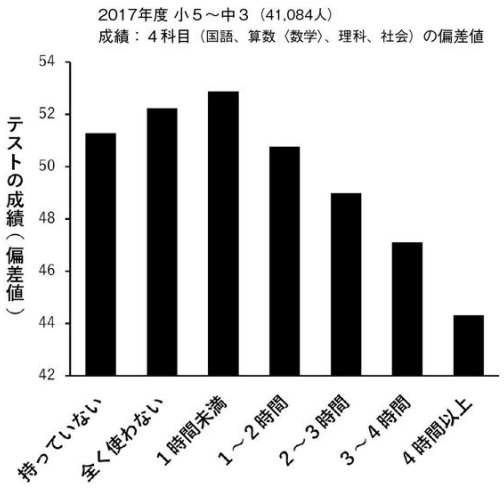
北九州市立則松小学校

近年、スマートフォンを利用開始する年齢がどんどん低下しています。今の情報化社会においてスマートフォンは不可欠のツールであることは間違いありません。しかしながら、正しく利用しないと大きなトラブルに巻き込まれてしまう危険性があることも指摘されています。学校では情報教育として「情報リテラシー」や「情報モラル」について学習を行っていますが、まだしっかりとした判断力が備わっていない小学生にスマートフォンを利用させる際には、保護者のしっかりとしたリスク管理が必要です。お子さまにスマートフォンを利用させる際は、次の４つのリスクを十分に検討してください。

① 学力の低下

スマートフォンの利用時間と学力には密接な関係があります。図表１のように利用時間が 1 時間を超えると時間の長さに比例して学力は低下していきます。また、東北大学加齢医学研究所所長の川島隆太教授によるとスマートフォンをほぼ毎日使う子どもは物事の認知機能に重要な役割を果たす大脳皮質と大脳白質の成長が止まる研究結果も発表されています。そのほか、スマートフォン利用による視力の低下や睡眠不足などの問題も学力と密接に関係しているようです。

図表1 スマホ等の使用時間と学力の関係



② 友人同士のトラブル

スマートフォンには LINE、 Twitter 、Instagram 、Facebook、YouTube、TikTok などの様々な SNS のアプリがあります。このアプリを利用する際に、友達を傷つけるような内容を書き込んだり、書き込みを無視したり、グループから仲間外れにしたりと様々なトラブルが起こっています。また、個人情報や公開したくない画像や映像を許可なくネット上に掲載されたりするようなことも起こっています。正しい知識がないことでいじめの被害者にも加害者にもなるリスクがあります。

また、SNS によって子どもたちはいつどこにいても友人関係から解放される時間がありません。関係する時間が増えれば増えるほどトラブルは増加していきます。

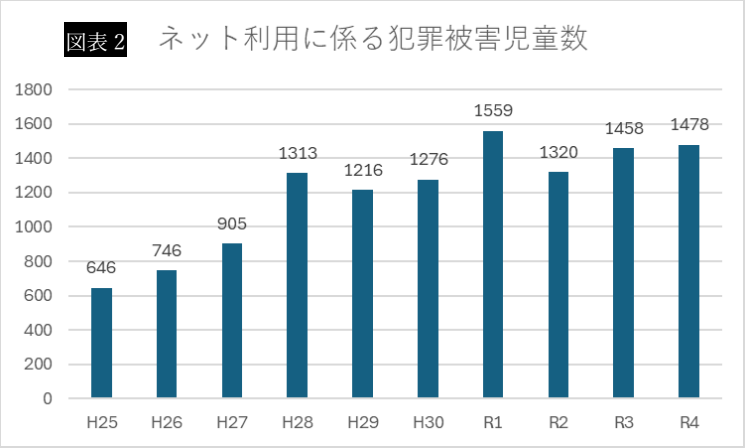
③ 依存症（家族としての時間がなくなる）

スマートフォンには SNS やゲームなど楽しいアプリがたくさんあります。そのため勉強や習いごとといった生活面や体や心の健康面などよりもインターネットの使

用を優先してしまい、使う時間や方法を自分でコントロールできないネット依存症になる子どもたちが多くいます。また、依存症とならないまでも家族全員が居間に揃っているにもかかわらず、それぞれがスマートフォンを見つめ会話がなされないというような状況が生まれたりします。子どもたちにとって家族との会話はとても大切です。

④ 犯罪に巻き込まれる

図表 2 のように毎年、ネット利用に係る犯罪被害児童数が増加傾向にあります。言葉巧みに裸の画像を送らせたり、誘い出してわいせつな行為をされたりという事件があとを絶ちません。



誘拐や殺人など凶悪犯罪の被害者にあった児童もいます。子どもたちに SNS を利用させることは子どもたちを犯罪者の手の届く距離に近づけることになりかねません。犯罪ではありませんが子どもたちがゲームで課金して高額な請求が発生した事案も多く耳にします。

「小学生にとってスマートフォンは有害玩具である」と指摘する識者もいます。エアガンやバタフライナイフなどと同様に危険なものであるからこそスマートフォンを小学生に利用させる場合は、保護者がしっかりと管理する必要があります。子どもたちに自由に扱わせると子どもたちは必ず危険にさらされます。どうしても子どもにスマートフォンを利用させる場合は、スマートフォンの管理の仕方として次のことを徹底してください。保護者の方が管理を怠ると被害に遭うのはわが子であるということをしっかりと認識したうえでスマートフォンを利用させてください。

① 利用時間（遅くても 21 時まで）
② 利用場所（充電場所も含めて保護者の目が届くところ）
③ フィルタリング機能を利用する（パスワードも保護者が管理する）
④ SNS に書き込む内容、アップする画像、映像等は保護者が確認する